

事務事業名		交付金活用道路修繕事業		所属部	建設部		所属課	建設工務課	
総合計画体系	政策名	〈Ⅱ〉安全・安心で快適なまち〈定住環境〉		所属G	公共維持G		課長名	西川 徹	
	施策名	〈12〉生活道路の整備		担当者名	松村 直樹		電話番号	0854-40-1062	
	目的・対象	A)市民(道路利用者) B)生活道路(市道)	意図	市内を安全に移動できる。			(内線)	2472	
	基本事業名	〈036〉生活道路の維持管理		予算科目	会計	款	大事業	大事業	道路施設管理事業
	目的・対象	道路利用者	意図	安全に移動できるように道路を維持管理し、情報を発信する。		014002	02	中事業	中事業
					項	目	中事業	中事業	交付金活用道路修繕事業
					101009	09			

1 現状把握【DO】

(1)事業概要

① 事業期間
☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (26 年度～)
☐ 期間限定複数年度 (年度～ 年度)
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
・道路維持管理計画に基づき、防災・安全社会資本整備交付金を活用し、修繕を実施する。 ・通学路安全プログラムに基づき、計画的な整備及び修繕等を実施する。

(2)事務事業の手段・指標

手段

① 主な活動		27年度実績(27年度に行った主な活動)		28年度計画(28年度に計画する主な活動)	
		・市道穴道線法面詳細設計業務 ・市道牛ヶ首線道路舗装工事 ・市道三代南加茂連絡線舗装工事 ・市道西小学校線舗装工事 ・市道大多和線舗装工事		・道路ストック点検結果に基づき、道路維持管理計画を見直し、計画的な修繕を実施する。 ・通学路安全プログラムに基づき、計画的な整備及び修繕等を実施する。	

② 活動指標		単位	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (計画)
ア	契約件数	件		3	5	5
イ	修繕箇所(工区)数	箇所		3	5	5
ウ						
エ						

(3)事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
	①生活道路の利用者 ②修繕が必要な生活道路等	ア 人口【国勢調査(推計)】	人		39,472	38,990	38,968
		イ 雲南市市道延長	km		1,158	1,158	1,160
		ウ					
目的	② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
	①市内を安全で迅速に移動できるようにする。 ②修繕(補修)等を実施する。	ア 生活道路が安全で便利だと感じている市民の割合	%		58.0	60.0	59.0
		イ 生活道路で危ない場所があると感じている市民の割合	%		70.8	71.0	71.5
		ウ 施工箇所	箇所		2	5	5

(4)事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (27年度決算)	② コストの推移	単位	25年度(決算)	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(計画)
市道穴道線法面詳細設計業務4,957千円 市道牛ヶ首線道路舗装工事17,672千円 市道三代南加茂連絡線舗装工事5,157千円 市道西小学校線舗装工事14,461千円 市道大多和線舗装工事1,361千円 消耗品51千円、燃料費165千円、修繕費69千円、賃借料333千円 【H26繰越分】 市道多久和六重線法面対策工事33,821千円 消耗品費864千円、燃料費215千円 合計79,126千円	財源内訳	千円		20,451	46,772	39,000
	国庫支出金	千円				
	県支出金	千円				
	地方債	千円		11,000	25,500	21,600
	その他	千円			873	
	一般財源	千円		449	5,981	700
	事業費計(A)	千円		31,900	79,126	61,300
	正規職員従事人数	人		5	4	
	延べ業務時間	時間		100	100	
	人件費計(B)	千円		389	391	
	トータルコスト(A)+(B)	千円		32,289	79,517	

(5)事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
道路維持は、全ての改善要望に対して充分応えることが出来ない。安全確保の必要性が高いものから順に補修、修繕作業を行っている。道路維持修繕は地域要望の中で最も多いものとなっている。また、多くの構造物が更新時期となっており、今後、更に事業費が必要となっている。	・道路ストック点検を実施し、防災・安全社会資本整備交付金を活用することで、修繕予算を確保し、計画的な修繕の早期対応を目指している。 ・平成24年度に道路維持管理計画を策定し、大規模修繕対応を別事業とした。	・市民から危険箇所等多数の改善要望。 ・議会から維持修繕の重要性和着実な実施の指摘がある。

事務事業名	交付金活用道路修繕事業	所属部	建設部	所属課	建設工務課
-------	-------------	-----	-----	-----	-------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由
	☐ 見直し余地がある ☒ 結びついている * 余地がある場合 →		
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？		
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？		
	☐ 見直し余地がある ☒ 適切である * 余地がある場合 →		
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？		
C 効率性	☐ 向上余地がある ☒ 向上余地がない 理由		・道路パトロールにより修繕箇所を把握し、計画に基づき修繕等を行っているため、成果は既に最大である。 ・平成26年度に道路ストック点検を行っており、優先度評価や特定財源の確保に努めることで、成果の向上を図った。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		
	☐ 影響無 ☒ 影響有 理由		
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		
	☐ 他に手段がある * ある場合 → (具体的な手段や類似事業名) ☐ 統廃合・連携ができる ☐ 統廃合・連携ができない ☒ 他に手段がない 理由		
	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)		
D 公平性	☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない 理由		・道路維持管理等に必要な経費である。 ・修繕要望箇所は多く、本事業の拡充を望む声もある。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		
	☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない 理由		
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		
	☐ 見直し余地がある ☒ 公平・公正である 理由		
	☐ 見直し余地がある ☒ 公平・公正である 理由		
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)
	A 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり B 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり C 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり D 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり		
・本事業は市民、議会及び職員にも事業効果について理解を得られていると考えている。 ・対応できなかった修繕を計画的に行うことができ、道路利用者の安全が確保できる。			

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	② 改革・改善による期待成果																					
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善) ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善) ☒ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。																					
・平成24年度に策定した「道路維持管理計画」に基づき平成25年度より、一定規模以上の維持修繕は「道路安全確保維持修繕事業」により修繕を図っている。 ・平成24年度末で終了した公共施設リフレッシュ事業の代替事業として、「道路維持修繕実施事業」により、草刈等の維持業務を実施する。 ・道路維持予算を維持していかなければ、道路施設の老朽化が進み、市民生活に多大な影響が出ることが予想される。 ・防災・安全社会資本整備交付金を活用することで、修繕予算を確保し、計画的な修繕の早期対応を目指している。	<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		●	×																		
	低下		×	×																		